

小学校におけるセクシュアルマイノリティ教育に関する

予備的検討

—絵本分析を手がかりに—

A Study of Sexual Minority Education in Elementary School

—Focusing on Possibility of Using Picture Books—

大淵 裕美・栗林 未鈴

Yumi OHBUCHI, Misuzu KURIBAYASHI

要旨 (Abstract)

本稿では、ジェンダー・セクシュアリティに関する教育を実施するに際し、最も身近な教材の一つである絵本を取り上げ、どのような内容や特徴があるのかの解明を目指すとともに、今後絵本を教材として使用するためにはどのような点を留意する必要があるかについての課題の析出を試みた。14冊の絵本を検討した結果、その多くが授業の導入や展開として採用しやすい所要時間のものであることが明らかとなった。また、セクシュアルマイノリティに関する教員の基礎知識や事前準備、資質に大きく左右される可能性が高いことも浮かび上がった。教育者がいかにジェンダー・ステレオタイプの思考を抑制できるかが課題となると予測される。このような課題を改善するためには、現職教員を対象としたジェンダー・セクシュアリティに関する研修や、教員養成課程におけるジェンダー・セクシュアリティ教育の一層の充実が示唆された。

キーワード：ジェンダー、セクシュアリティ、セクシュアルマイノリティ、小学校教育、絵本

1. はじめに

近年、小学校における性的少数者（以下、セクシュアルマイノリティとする）への支援や対応の充実等が喫緊の課題となっている。例えば、2015年に文部科学省より「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」と題する通知が発行され、学校において当該児童生徒へのきめ細かな配慮や具体的要請がされるようになった¹。また、2020年度より、小学校保健体育の教科書に初めてセクシュアルマイノリティに関する事柄が記載されることとなった。具体的には、光村図書発行の3・4年生向け教科書、および公文書院の5・6年生向け教科書である。これらを踏まえると、小学校においても、児童への個別対応のみならず、保健体育等を通じてセクシュアルマイノリティに関する授業を実施できるだけの知識や適切な対応力のある教員が求められていると言える²。

しかしながら、教育現場において教員の対応力や実際の授業経験、さらに養成機関での教育経験については課題が多く残されている。例えば、日高（2015）によると、教員5,979名を対象に実施したセクシュアルマイノリティに関する意識調査によれば、教育の現場で同性愛について教える必要があると答えた教員は62.8%、性同一性障害について教える必要があると答えた教員は73%だったのに対し、実際にLGBTについて授業に取り入れた経験があると回答した教員は

13.7%であった。また、授業で取り上げない理由として、同性愛や性同一性障害についてよく知らない(26.1%)、教科書に書かれていない(19.1%)、教えたいと思うが教えにくい(19.1%)などの回答があったと指摘する。つまり、教える必要があると感じつつも、知識がなかったり教科書に記載がないなどの理由から授業で取り扱うことが難しい状況が予想できる。

このような状況に対して、セクシュアルマイノリティに関する諸団体が、小中学校向け教材の開発や講演活動を実施している。例えば、認定NPO法人 ReBit は、「Ally Teacher's Tool Kit」という小学校・中学校向け教材キットを開発している³。この教材の特徴は、「LGBT について教員が基礎知識を理解し、授業の中で性についての正しい情報を子ども達に提供し、LGBT の理解者である「アライ先生」となるまでをワンストップで支援する」(NPO 法人 ReBit2018:4) という点にある。小学校向け教材キットには、ワークシートや配布資料、映像教材といった児童向け教材のみならず、教員向け資料として、セクシュアルマイノリティに関する基礎知識等が記載されたハンドブック、ブックリスト、道徳での授業を想定した学習指導案、指導の手引き等が含まれている。

ReBit の教材の特徴として、当団体が独自に開発した当事者が登場し多様な性について語る映像教材がある。たしかに映像教材は、セクシュアルマイノリティの当事者自身が教員・学習者に映像を通して直接語ることができるという利点が挙げられよう。しかしながら、映像の印象が残りすぎてしまい、受講者に対して返ってジェンダー・ステレオタイプを強化したり、受講後に映像の感想を語り合う中で無自覚な差別的言動を引き起こす恐れも否めない。万一学習者に当事者がいた場合、教員が適切な対応をしなければ、当該児童生徒に二次被害を与える恐れもある。

本研究では、ジェンダー・セクシュアリティに関する教育を実施するに際し、最も身近な教材の一つである絵本を取り上げ、どのような内容や特徴があるのかの解明を目指す。絵本は、教科教育および教科外教育において多様に活用され有効であることが指摘されている。例えば、鈴木・永田(2017)は、学校教育における絵本の活用状況を検討した結果、次の点を明らかにしている。

「教科教育の中では比較的絵本をつくる活動が多く、制作するための参考資料に絵本を教材として活用しているケースが見受けられた。逆に教科外では、絵本を読み聞かせに活用する傾向がある。中でも読み聞かせの活用で注目したいのが、イメージしにくいであろう題材に補助的資料として導入に用いられる点である。その効果も実践レベルではあるが有効である報告が多かった。教科教育の中には、学習に臨むにあたり、児童や生徒が日常の中にイメージしにくい事柄がある。例えば上述の調査では、戦争を含む歴史学習などがそれに相当し、絵本が教科教育において教材として活用できることを示唆するものである」(鈴木・永田 2017:163)。

この指摘を踏まえると、セクシュアルマイノリティは、児童生徒のみならず教員にとっても日常の中でイメージしにくい事柄の一つともいえる。そのような題材を授業で取り扱う場合、絵本が教材として用いられる可能性は非常に高いと予想される⁴。

そこで、本稿ではジェンダー・セクシュアリティに関する教育を実施するに際し、最も身近な教材の一つである絵本を取り上げ、どのような内容や特徴があるのかの解明を目指すとともに、

今後絵本を教材として使用するためにはどのような点を留意する必要があるかについての課題の析出を試みる。

2. 研究方法

本研究では、認定 NPO 法人 ReBit が発行している『Ally Teacher's Tool Kit』のブックリストに掲載されている絵本 15 冊のうち、絶版本を除いた 14 冊を対象に分析した。その理由は、管見の限り、最も網羅的に記載されたものであり、多くの小学校教員が容易にアクセスしやすいリストであると考えたからである。分析に際し、執筆者 2 名で各自絵本を精読した後、その内容や特徴を KJ 法を用いて分類した。また、おおよその所要時間を音読して測定した。

3. セクシュアルマイノリティに関する絵本の特徴

表 1・表 2 は、収集した絵本の概要である。表 1 は、日本国内で刊行された絵本の一覧であり、表 2 は翻訳絵本の一覧である。対象となる絵本は次のような特徴がある。14 冊中 8 冊が翻訳絵本であり、6 冊が国内の絵本であった。翻訳絵本は、8 冊中 6 冊が英語圏のものであり、イタリア、オランダでの出版が各 1 冊あった。出版年を確認すると、2000 年以前に日本国内で出版された絵本は 1 冊のみで、2000 年代は 3 冊、2010 年代は 10 冊であった。ページ数については、30 ページ未満の絵本は 2 冊で、30 ページから 40 ページ台の絵本が大半を占めた。

表 1 分析対象となる日本国内で刊行された絵本一覧

ID	書名	発行年 (翻訳年)	著者 (翻訳者)	出版社	判型・ ページ数
1	『けっこんしようよ』	1990	新沢としひこ(文) 今井弓子(絵)	岩崎書店	B5変形 32ページ
2	『くれよんのくろくん』	2001	なかやまみわ(作・絵)	童心社	B5 32ページ
3	『こんなのへんかな?』	2001	村瀬 幸浩(文) 高橋 由為子(絵)	大月書店	A4変形 40ページ
4	『わたしはあかねこ』	2011	サトシン(作) 西村敏雄(絵)	文溪堂	A4 36ページ
5	『じぶんをいきるためのるーる。』	2015	ippo.	解放出版社	B6変形 24ページ
6	『りつとにじのたね』	2016	ながみつ まき(文) いのうえ ゆうこ(絵)	リーブル出版	B5 32ページ

表 2 分析対象となる翻訳絵本一覧

ID	書名	発行年 (翻訳年)	著者 (翻訳者)	出版社	判型・ ページ数	原著書名	原著 出版年	原著者	原書出版社
7	『タンタンタンゴは パパふたり』	2008	尾辻かな子 前田和男	ポット 出版	A4横変形 32ページ	and tango makes three	2005	Justin Richardson (文), Peter Parnell (文), Henry Cole (絵)	Simon & Schuster Books for Young Readers (New title版)
8	『たまごちゃん、 たびにでる』	2013	ドリアーノ スリス おおにし よしみ	イタリア 会館 出版部	B5変形 26ページ	Piccolo uovo	2011	Francesca Pardi (文), Altan (絵)	Lo Stampatello
9	『王さまと王さま』	2015	アンドレア ゲル マー 眞野豊	ポット 出版	B4変形 36ページ	Koning & Koning	2000	Stern Nijland (文・絵), Linda de Haan (文・絵)	Gottmer
10	『くまのトーマスは おんなのこ: ジェンダーと ゆうじょうについての やさしいおはなし』	2016	かわむら あやこ	ポット 出版 プラス	B4変形 36ページ	Introducing TEDDY	2016	Jessica Walton (文), Dougal Macpherson (絵)	Bloomsbury Childrens Books
11	『レッド:あかくてあおい クレヨンのおはなし』	2017	上田勢子	子どもの 未来社	B5 40ページ	Red: A Crayon's Story	2015	Michael Hall (文・絵)	Greenwillow Books
12	『ふたりママの家で』	2018	中川垂紀子	サウザン ブックス 社	A4変形 47ページ	In Our Mothers' House	2009	Patricia Polacco (文・絵)	Philamel Books
13	『いろいろな かぞくのほん』	2018	杉本詠美	少年 写真 新聞社	A4変形 40ページ	The Great Big Book of Families	2011	Mary Hoffman (文), Ros Asquith (絵)	Dial Books
14	『レインボーフラッグ 誕生物語: セクシュアルマイノリティの 政治家 ハーヴェイ・ミルク』	2018	日高庸晴	汐文社	A4変形 48ページ	Pride : the story of Harvey Milk and the rainbow flag	2018	Rob Sanders (文), Steven Salerno (絵)	Random House Books for Young Readers

表 3 絵本の特徴と所要時間

分類	書名	所要時間	作品の概要及び特徴
セクシュアルマイノリティ (LGT)	『タンタンゴはパパふたり』	10分	総ルビ。ペンギンのゲイカップルによる育児。ペンギンという動物を事例としているため、取り扱いやすい反面、人間に置き換えて考える際に工夫や配慮が必要。
	『王さまと王さま』	7分	総ルビ。高齢の女王が結婚しない王子の結婚相手を探すためにお見合いを続けた結果、同伴者だった姫の兄に一目惚れをして結婚する。プリンセスストーリーのような序盤から結論への展開に意外性があり、思い込みを相対化させられる。ただし、王子という上流階級の出来事のため、身近な事柄として考える際に留意が必要。
	『くまのトーマスはおんなのこ：ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし』	5分	ひらがな・カタカナのみ。MtFのクマのぬいぐるみが持ち主のエロールにカミングアウトし持ち主の友人エイバと自分らしく生きる。カミングアウトに対する受け止め方や、登場人物の多様なジェンダーのあり方が学べる。ぬいぐるみがMtFという設定に違和感を持つ可能性もある。
	『りつとにじのたね』	7分	ひらがな・カタカナのみ。かわいものやスカートなどが好きな「くまのくに」に住む小学生の男の子の「りつ」が、同級生男子からいじめを受ける。自分らしくいられる場所を探しているうちに「にじのくに」にたどり着く。「にじのくに」でありのままの自分を受け入れられる場所があることを伝えることができる。いじめの当事者が、いじめ加害者の役に立つことで和解するという展開に違和感が残る可能性もある。
	『ふたりママの家で』	20分	総ルビ。レズビアンカップルと養子に迎えられた3人の子どもの物語。養子に迎えられた黒人の女の子の目線から子どもたちの成長・独立・ママたちの死とその後が描かれている。レズビアンカップルと養子という家族関係に対する理解を促すことができる。海外の事例のため、児童がどの程度自分事としてとらえることができるかは留意が必要。
パート多様性の	『けっこんしようよ』	5分	総ルビ。ひらがな。「ドレミファえん」という就学前の子どもたちの多様な性のありかたや幸せのあり方を「けっこんのお祝いごっこ」を舞台に描いている。ぬいぐるみや図鑑との「結婚」だけでなく、結婚しないことをお祝いする子どもを描写することで、「結婚=幸せ」という構図を相対化している。ただし、幼児の「ごっこあそび」でとどまってしまう可能性があったり、児童の家族関係や背景を十分に留意する必要がある。
	『たまごちゃん、たびにでる』	5分	総ルビ。ひらがな。生まれる前のたまごが多様な家族と出会う旅に出る。ひとり親家族、ゲイやレズビアンカップルと子ども、種類や色の異なる犬の家族等、多様な家族形態があることを知ることができる。ただし、該当する家族形態の児童がいる可能性があるため配慮が必要。
	『いろいろななかぞくのほん』	8分	ひらがなとカタカナのみ。家族の多様性について、形態、構成要員、衣食住、就学・就労、余暇、移動方法、感情などに焦点を当てて描いている。知ることができる。また、各状態が固定的なものではなく変化する可能性も指摘している。見開き1ページでトピック別に構成されている箇所もあり、部分的に使用できる。ただし、該当する家族形態の児童がいる可能性があるため配慮が必要。
マイノリティ	『くれよんのくろくん』	6分	ひらがなとカタカナのみ。黒いクレヨンが他の色のクレヨンから仲間外れに合うが、シャープペンシルの機転により、黒いクレヨンを活かす絵を作成したことで仲間と和解する。色をモチーフにしながらいじめや自分らしさの気づきとして活用できる。ただし、仲間外れや仲違いの描写があるため、配慮が必要。色と性別に関するステレオタイプを相対化する力量も求められる。
	『わたしはあかねこ』	7分	ひらがなとカタカナのみ。白と黒のねこ家族に生まれた赤い色のねこ「あかねこ」の視点から書かれた絵本。あかねこが家を出て自分の居場所を探し求め、最後には自分らしくいられる場所を見つける。虐待やいじめを経験している児童がいる場合は特に配慮が必要。
	『レッド：あかくてあおいクレヨンのおはなし』	7分	ひらがなとカタカナのみ。えんぴつに「私」の視点を置き、「赤のラベルの付いた青い色を塗るクレヨン」がいかに自分や周囲の思い込みから脱却し自分らしさに気がつくかを描いている。色をモチーフにして自己認知と他者認知の相対化に活用できる。ただし、いじめや強要のような描写があるため、配慮が必要。色と性別に関するステレオタイプを相対化する力量も求められる。
ステレオタイプの	『こんなのへんかな?』	20分	総ルビ。児童生徒の学校生活や日常生活におけるジェンダーに関する様々な違和感と向き合う絵本。見開き1ページで、「男の子がスカートはくのって、へん?」「暴力使うなんておかしいよ!」など各トピックに対する疑問を投げかける形式となっているため、部分的に使用できる。教師や大人、メディア等に対する疑問を扱うページもあり、使用者の価値観や常識に対して再考を促すような内容も含まれる。文字量が多く、絵本一冊を使用する場合は、時間に余裕を持たせる必要がある。
歴史	『レインボーフラッグ誕生物語：セクシュアルマイノリティの政治家ハーヴェイ・ミルク』	10分	部分的ルビあり。ハーヴェイ・ミルクの生涯とレインボーフラッグ誕生に関する伝記的物語。レインボーフラッグがどのような経緯で誕生したのかや米国を中心としたように浸透していったのかを知ることができる。1960年代から2000年代までの米国におけるセクシュアルマイノリティの社会的地位などに関する基礎知識が必要となる。
共生	『じぶんをいきるためのるー。』	3分	総ルビ。ひらがな。自分も他者もともに自分らしく生きるための心がけが「6つのるー」としてまとめられた本。ページ数も少なく、メッセージが端的なため、様々な場面で使用しやすい。ただし、メッセージが端的であるからその難しさもある。

表3は、14冊の絵本をカテゴリーに分類し、特徴と所要時間を示したものである。絵本の内容を検討した結果、「セクシュアルマイノリティ (LGT)」「パートナーシップの多様性」「マイノリティ」「ステレオタイプの相対化」「歴史」「共生」の6つに分類された。各項目の割合は、「セクシュアルマイノリティ (LGT)」が5冊と最も多く、次いで「パートナーシップの多様性」と「マイノリティ」が各3冊、「ステレオタイプの相対化」「歴史」「共生」が1冊ずつとなった。

分類別について詳しく特徴を見ていきたい。まず、「セクシュアルマイノリティ (LGT)」は、レズビアン (1冊)、ゲイ (2冊)、トランスジェンダー (2冊) を対象としたものが含まれる。『りつとにじのたね』を除いた4冊は翻訳絵本である。トランスジェンダーを扱う『くまのトーマスはおんなのこ』と『りつとにじのたね』の2冊は、いずれも MtF (Male to Female) をモチーフにしたものであるが、作風は大きく異なっている。『くまのトーマスはおんなのこ』は、主人公エロールがトーマスと名づけて一緒に遊んでいたぬいぐるみから、ある日実はおんなのこだと自認しており、「ティリー」と呼んでほしいというカミングアウトをされる。エロールはカミングアウトを受け入れ、自身の友人エイバとともにティリーと今までと同じように友達として過ごすという展開である。

一方、『りつとにじのたね』は、かわいいものが好きな男の子「りつ」が、「男らしくない」と同性の友人たちからいじめを受ける。りつは、くまのくにを飛び出し、ありのままの自分を受け入れてくれる「にじのくに」とその住人たちと出会う。りつは、にじのくにに居続けることもできたが、くまのくにに戻ることを決意する。くまのくににもどると、星型のワッペンがとれて困っている同性の友人たちに出くわす。りつは裁縫の能力を発揮し手助けする。りつによって自身の困難な状況が解消された友人たちは、りつの存在を認め受け入れていくという展開である。

次に「パートナーシップの多様性」については、家族形態の多様性やパートナーシップの多様性について扱ったものである。『けっこんしようよ』以外は翻訳絵本となっている。ここでは、『けっこんしようよ』の特徴を取り上げたい。『けっこんしようよ』は、1990年に刊行されており、分析対象の絵本の中で最も早く刊行された絵本である。題名だけを見ると、結婚を賛美する印象があるが、内実は、異性、同性のみならず、「ぬいぐるみ」「図鑑」「一人でいること」すべてを結婚として祝い、どの形態の式も盛大に行われるという構成になっている。

「マイノリティ」は、3冊全てが「色」をモチーフに、常識の相対化や少数派の生きづらさと自分らしさの発見がテーマとなっている。『レッド』と『くれよんのくろくん』は、ともにクレヨンという文具を題材にしている。一方、『わたしはあかねこ』は、家族とは異なる毛色で生まれてきたあかねこの物語である。あかねこは、家族成員からのパターンリズムによって、家族と同じ色になるように強要されるが、家族と違うことに対する違和感がぬぐえず、家を飛び出し、自分の居場所を探す旅に出かける物語である。

「ステレオタイプの相対化」に当てはまる『こんなのへんかな?』は、子どもの視点から、児童生徒の学校生活や日常生活におけるジェンダーに関する様々な違和感と向き合う絵本である。見開き1ページで、「男の子がスカートはくのって、へん?」「暴力使うなんておかしいよ!」など各トピックに対する疑問を投げかける形式となっているため、部分的に使用できるという特徴がある。また、教師や大人、メディア等に対する疑問を扱うページもあり、使用者の価値観や常識に対して再考を促すような内容も含まれる。

「歴史」は『レインボーフラッグ誕生物語』の1冊である。これは、現在セクシュアルマイノ

リティの象徴として使用されているレインボーフラッグの誕生と密接なかわりがある、アメリカの政治家ハーヴェイ・ミルクの生涯と、その後のレインボーフラッグが米国を中心にどのように浸透していったのかを知ることができる。1960年代から2000年代までの米国におけるセクシュアルマイノリティの社会的地位などを理解することができる。

「共生」は、『じぶんをいきるためのルール』の1冊である。この本は、他の本と比較して版型が小さく、ページ数が最も少ない特徴がある。自分を大切にするための6つのルールが端的に書かれており、低学年の児童でも容易に読むことができる。

それぞれの絵本のおおよその所要時間を検討した結果、14冊の平均所要時間は9分であった。また、『じぶんをいきるためのルール』が最も短く3分であったのに対し、『こんなのへんかな?』と『ふたりママの家で』が20分と最も時間を要した。それぞれの特徴として、総ひらがなやひらがなとカタカナのみの絵本については5-8分程度に収まるものもあったが、総ルビになると所要時間が長くなる傾向にあった。なお、『こんなのへんかな?』や『いろいろななかぞくのほん』については、トピックで部分的に使用することも可能なため、所要時間が短くなる場合もある。

ただし、これらすべての絵本を用いる際には、児童のセクシュアルマイノリティに関する知識の共通理解や、教員の事前準備や学習は欠かせないと思われる。とりわけ、児童が授業のどのタイミングでどのような反応をするか、またその際にどのように対応するかも十分に準備をする必要がある。実際に、第二著者が『レッド』を使用した授業を実施した際に、まとめとして「レッドに手紙を書くという」ワークを行った。終了直前に、ある児童から「レッドの性別は何か」と疑問が投げかけられたのをきっかけに、児童から様々な疑問や反応が続出した経験がある。本来であれば、授業時間数を十分に確保したうえでセクシュアルマイノリティについて深めていくことが望ましいが、授業時間が1時間分のみしか確保できない場合は、授業時間中の子どもたちの反応のみならず、授業後の児童の言動などにも十分に留意する必要があると考えられる。

4. 結びにかえて

本稿では、ジェンダー・セクシュアリティに関する教育を実施するに際し、最も身近な教材の一つである絵本を取り上げ、どのような内容や特徴があるのかの解明を目指した。その結果、分析対象の絵本のうち8冊が翻訳絵本であることが明らかとなった。また、日本での刊行年を見ると、2015年以降に出版されたものが8冊でそのうち翻訳絵本は6冊を占めることが明らかとなった。このことから、セクシュアルマイノリティを含むマイノリティや多様性に関する絵本はここ5年で増加しており、選択肢の幅が広がっていることが指摘できよう。

また、所要時間を検討した結果、平均9分程度であり、絵本によっては導入や展開で使用することは比較的取り入れやすいと考えられる。ただし、所要時間が20分程度必要とされるものについては、一度の授業で完結させることが難しい可能性も示唆された。

さらに、いずれの絵本を使用するにしても、教員にとってジェンダーやセクシュアルマイノリティに関する基礎知識や事前準備を十分に行う必要があることが浮かび上がった。特にこの度検討した絵本の多くは、ReBitが開発しているような教員向けハンドブックや、指導の手引き、さらに指導書などが存在しない。そのため、授業展開や授業前後の児童への対応が教員自身の資質や知識に大きく左右される可能性が否めない。矢野(2019)は、ジェンダー・ステレオタイプ

の強い教師がジェンダー・ステレオタイプを再生産する可能性を指摘している。小学校教諭がもつジェンダー観と教科学習能力に対する性差の認識と関連を分析した結果、小学校教諭の中には性別特性論を強く信じている人も少なくないことが明らかとなった。とりわけ、性別特性論の信念が強い教諭ほど、教科学習能力の性差を大きく認識しており、生徒の性別によって働きかけが異なるという関連がみられたという。教育者がいかにジェンダー・ステレオタイプの思考を抑制できるかが大きな課題であると指摘している。本稿で取り上げた絵本を用いる際にも、矢野の指摘と同様の課題が生じることが大いに予想される。このような課題を改善するためには、現職教員のジェンダー・セクシュアリティに対する自己の認識を客観視し、自省的に対応できるような具体的な教員研修のみならず、教員養成課程におけるジェンダー・セクシュアリティ教育のより一層の充実が重要となるだろう。

なお、本稿では、各絵本において登場人物に用いられている呼称や、話し言葉、色や持ち物などの暗黙のジェンダーバイアス等については十分に検討できなかった。また、絵本の特徴は明らかにできたが、実際に教材として用いる際の意義と留意点に関してどのような客観的指標が妥当かについても検討できなかった。今後の課題としたい。

【脚注】

1. https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm
(2020/01/25 アクセス)。
2. 寺町 (2018) によると、2017 年に改訂された学習指導要領を分析した結果、セクシュアルマイノリティの人々の存在については、一切言及されていないことが明らかとなっている。また、性別特性や性別役割分業を暗に前提とした記述が見られ、ジェンダー不平等な社会の形成へ学習指導要領が貢献しているという危惧を示している。ジェンダー平等やジェンダー公正な社会の構築へ向けて、新たな学習指導要領が果たす役割は極めて小さいと推察している。現在の義務教育課程は、ジェンダー不平等な学習指導要領と、ジェンダー公正やセクシュアリティの多様性の尊重を要求する文部科学省の通知とが混在するねじれた状況となっていると指摘できる。
3. 2019 年 7 月に認定 NPO 法人 ReBit のスタッフ 2 名を招聘し、教員養成学部に所属する大学生対象に小学生向けの模擬授業を実施いただいた。さらに、キット開発に際する留意点や課題等についてご講演いただいた。本稿執筆に多くの示唆を得た。
4. 第二執筆者は、2019 年 6 月に小学校 3 年生の道徳の授業で、後に紹介する絵本の一つである『レッド』を教材として用いた。中学年の児童の発達状況に即した絵本であると判断したためである。

【引用・参考文献】

- 日高庸晴 (2015) 『厚生労働省エイズ対策研究事業 子どもの“人生を変える”先生の言葉があります。 教員 5,979 人の LGBT 意識調査レポート』 <http://health-issue.jp/f/> (2020/01/27 アクセス)
- 認定 NPO 法人 ReBit (2018) 『認定特定非営利活動法人 ReBit2018 年度年次報告』 https://rebitlgbt.org/pdf/rebit_groupreport_2018.pdf (2020/01/27 アクセス)
- 鈴木千春・永田智子 (2017) 「学校教育における教材としての絵本活用の意義と可能性」『兵庫教育大学学校教育学研究』 30: 159 - 165.

寺町晋哉（2018）「ジェンダーの視点からみた新学習指導要領」『宮崎公立大学人文学部紀要』25（1）：105－122.

矢野円郁（2019）「小学校教諭におけるジェンダー意識と教科学習能力の性差に対する認識の関係—ジェンダー・ステレオタイプの再生産防止のために—」『神戸女学院大学論集』66（1）：73－84.

【付記】

本稿は平成30年度奈良学園大学人間教育学研究会研究助成「小学生を対象としたセクシュアルマイノリティに関するわかりやすい授業に向けた実践的研究」（研究代表者・栗林未鈴）の成果の一部である。